

マレーシア旧市街地に存在するショップハウスの空間特性に関する研究

A Study on Spatial Characteristics of Shophouse in Old Town Area of Malaysia

田邊勇輝¹ 重枝豊² 加藤千晶²Tanabe Yuuki¹ Shigeeda Yutaka² Kato Chiaki²

Abstract: Progress in research at shop houses in Malaysia is a bad situation. We can not find surveys and studies on shop houses specific shop houses, surveys and considerations by detailed classification of morphological features and architectural styles of various shop houses. We conducted a survey of the questions on the planned surveyed property that was held from August 17 to August 22, and two new planar surveys, which will be discussed. When viewed from the outside, Kakirima is responsible for the framework as an intermediate area between the external space and the shophouse. However, from the plan configuration and the cross-sectional configuration, you can see that it is not so. We think that we have an intermediate area by the courtyard in the shophouse which has the shrimp in the middle area. Furthermore, we will consider the spatial characteristics of the shophouse from the outside and want to advance research.

1. はじめに

マレーシアのショップハウスの研究の進歩は芳しくない状況である。布野修司、宇高雄志らによる地域別の実測調査及びヒアリング調査より、ショップハウスの空間構成や利用状況、または市街地空間、都市的視点での考察が散見される。しかし、ショップハウス特有のカキリマについての調査や研究、多種多様なショップハウスの形態的特徴や建築様式などの詳細な分類による調査や考察がほとんど見られないため、隣接する建築物との共有壁に着目をして、平面構成、断面構成、の分類と分析を行い、カキリマが生み出す空間特性や利用状況などを考察したい。本研究は、ショップハウスの将来像を探求することを目的としている。

2. マラッカにおけるショップハウスについて

調査地域は、マレーシアのショップハウスが多く現存する古都マラッカとする。マラッカはポルトガル、オランダ、イギリスの順に植民地として支配されてきた。現在、マラッカにあるショップハウスはオランダ植民地時代に建設されたものが大半である。理由は、ポルトガル時代のマラッカをオランダが奪取した際に多くの建物を焼き払ってしまったためとされている。支配者がイギリスへ移ってから多くのショップハウスが建設された。オランダ、イギリス植民地経営において大きな役割を担っていたためと考えられる。それは、マラッカが開港都市として繁栄したためだと考える。中国を追放された、イスラムの商人たちはマラッカに居住地を作り、そこに移り住んだとされる。

3. 現地調査結果による考察

8月17日から8月22日に、2軒の新しい平面調査を行った。その結果を踏まえ、考察を行う。調査はマラッカ世界遺産中心地の Tun Tan Cheng Lock Street と Hang Jebat Street である。3軒のショップハウスは Tun Tan Cheng Lock Street に存在している2階建てである。2軒はミュージアムとして解放されており、もう1軒は駐車場となっている。まず、図1のショップハウスは、間口5435mm奥行き50m近くある。ファサードに装飾が見られ、2階開口部は3箇所が存在する。ユネスコ委員会でまとめられた分類分けでは、「Early Straits Eclectic Style」と呼ばれる様式に近いものだと考える。1890-1920'sに出た様式で1910'sにはRC造が出現したことから間口が広く、大スパンを実現している。図2をみると中庭が2箇所存在している。中央部にある空間はミュージアムの管理室になっていた。壁を増築した跡などが見受けられないことから、当時の平面を保ったままミュージアムとして運営していると考えられる。しかし、本来あるはずの台所などの調理場に相当するものはなかった。調理場をなくしたものの他は、当時の平面は保っていると推測する。次に、図3は1階が駐車場として間口4430mm奥行き20mある。中庭は存在せず、階段室であろう入口が設けられているだけである。2階への階段はショップハウス中央付近に設けられるものが多く、この階段室は創建時のものではなく後から設けられたものだと考えられる。創建時は奥行き40m程度の1階を店舗ショップハウスだった。図4をみると、現在は道路になっており、居室などがあつた形跡は見

1: 日大理工 学部 建築 2: 日大理工 教員 建築

られない。また、外部から 1 階に入らず 2 階に行く外部階段が設けられている事例は 1960's 以降で比較的新しいものであると考えられる。



図 1 実測番号 No.1

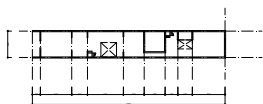


図 2 目前平面図 No.1



図 3 実測番号 No.2

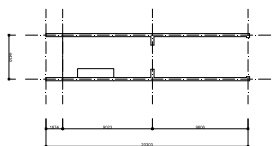


図 4 目前平面図 No.2

断面構成については 2 階部分に入ることのできるショップハウスがなく、2 階部分の実測調査が行えなかった。また、屋根形状などはわからなかった。そのため今回は、断面構成の資料とショップハウスの俯瞰図を中心に考察する。図 5 を見てみると、ショップハウスの屋根は切妻屋根が奥行きによっていくつも連続している。さらにその連続する切妻屋根の境に中庭が設けられる。小規模な切妻屋根の建物が中庭によって接続され、それによって奥行きが深いショップハウスが生まれている。図 6 を見てみると、立面が連続していたり、屋根が連続していても各ショップハウスの屋根材料が異なっていることがわかる。端壁は共有壁として共有しているが、屋根の施工は各戸で行われていると見られる。



図 5 屋根部分

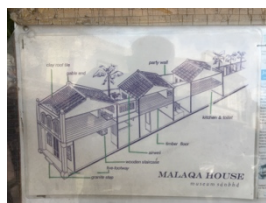


図 6 断面図イラスト

4. まとめ

以上の平面考察と断面考察より、図 7 の構成になると考える。カキリマは外部から見ると、外部空間とショップハウスの中間領域としての枠割を担っている。しかし、平面構成、断面構成からカキリマの枠割を見てみるとそうではないことがわかる。カキリマは中間領域で

はなく、あくまでも外部空間としての役割が強い。そのため平面内でさらにパブリック空間とプライベート空間に分かれる。断面構成からその空間を分けているのが、中庭である。中庭を設けることでショップハウスは奥行きが深くなり、それに伴ってプライベート性が高まると考える。つまり、中間領域のカキリマを持つショップハウス内には、さらに中庭による中間領域を持っていると考える。カキリマと中庭に影響されたショップハウス内の空間用途は、カキリマに近い空間は接客など来賓の空間として利用され、プライベート空間には浴室や便所、調理場などの水まわりが設けられている。これは都市計画上の理由も考えられる。中間領域にはダイニングや 2 階への階段が設けられる。中庭は通風、採光だけではなかった、さらに外部から見るカキリマの空間特性について考察を行い、研究を進めていきたい。

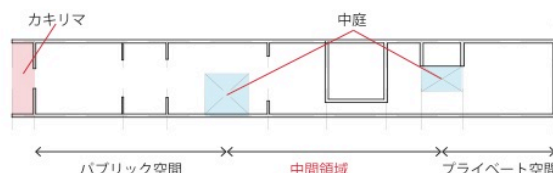


図 7 カキリマの空間構成

5. 参考文献

- [1] 海域アジアの華人街 泉田英雄 2006/3/30 学芸出版社
- [2] アジア遊学 2005/10/20 勉誠出版 p.152-p.191
- [3] 多民族共住のダイナミズム 宇高雄志 2017/2/28 昭和堂
- [4] malacca voices from the street Lim Huck Chin 2006
- [5] home of peranakan Melissa Chan 2015 baba&nyonya heritage museum
- [6] baba&nyonya house museum ガイドブック
- [7] Melaka and George Town, Historic Cities of the Straits of Malacca Nomination 1223bis (inscribed minor boundary modification)
- [8] シン アイリーン, 高木 真人, 阪田 弘一, 西村 征一郎: 「マレーシア・ペナン島のショップハウスに関する研究: ジョージタウン市における伝統型ショップハウスの空間構成について」 日本建築学会計画系論文集 70(597), 1-7, 2005.11